

秋分儀式

I ∴ O ∴ S ∴ 儀式魔術文書 AE09A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I ∴ O ∴ S ∴

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I ∴ O ∴ S ∴

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I ∴ O ∴ S ∴ ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式 (Astral Temple Working) として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。2009年の秋分点通過は、9月23日6時18分(日本標準時)である。

儀式内容は、メルカバ神秘主義の公式を利用して秋分の祝祭を実施する。

1 神殿作業

(1) 肉身に刻まれた印

主は言われた「町のなか、エルサレムのなかを巡り、そのなかで行われている悪しきことを嘆き悲しむ者の額に印をつけよ」(『エゼキエル書』9章4)このとき善き人の額に刻まれたのは、ヘブル語の最後の文字タウであると言われる。

同様に様々な印が肉身につけられることがある。それらの聖なる印は、「+」や「×」であることが多い。もちろん、肉体に印をつけるとき、交叉する直線の組み合わせが一番自然で早いからだ。タウも、実際に人間が刻むときは、英語のTのように2本の線で構成(2画図形)されていたのだろう(エゼキエル書では天使が刻んだと書かれているので、もっと優雅な曲線であったと思われる。英語のT及びギリシャ語のτは、おおむね2画だがヘブル語の𐤕は、3画とも言える。)

『VE08A』において述べたように、一般に正当派のユダヤ教徒にとって文身(イレズミ)をすること自体が禁じられていた。「死人のために身を傷つけてはならない。また、身にイレズミをしてはならない。」(『レビ記』19章28)とあるからだ。

しかし、厳密に調査するとこの禁令の正否は不確かである。

上記の『レビ記』を解釈したラビ・シモンによると、「人の肉体に神名を文身することは禁じられていた。それは聖書の字句のとおりである。しかし、文身自体が禁じられていた訳ではない。」(『トセフタ・マコース』4章12)とある。

別の解釈によると、「神名の文身が禁じられていた訳ではない。偶像の神の名を文身することが禁じられていたのだ。」ともある。古代において、魔術を行うものは『パピルス文書』の神名を文身する場合があった。

ヨム・キプールの浸洗の手順には、神名を刻んだ者は、その表面を覆うか、リボンを縛ってから沐浴せよとある。

さて、ヘハロース文書群においては、魔術的な神名の刻印は自然に行われていた。

I ∴ O ∴ S ∴ の「7つの封印」は、ヘハロース文書群の『マセー・メルカバ』から引用したものである。⁽¹⁾

同じく代表的なヘハロース文書である『ヘハロース・ラバタイ』においては7宮殿の門番となる天使の名前と通過するために必要な封印の名前が語られる。

「ラビ・イシュマエルは語りき。汝が第1宮殿の門に到着し、その前に立つとき、二つの封印を両手に刻むべし。ひとつは、主トトロシアイ (טוֹטְרוֹסִיאִי הַיְיָ) 、今ひとつは、スリヤー (סְרִיָּא) 」⁽²⁾

この調子で第5の宮殿の門までは、2柱の案内者が先導し、門を守る2列の門番の天使群に2個の封印を示す。第6宮殿では3個の封印を右に2個、左に1個示す。

それでは第7宮殿までに、手の甲が文身だらけになるのではないか?

もちろん、フル・スペルを刻み込むのではない。へーやタウなどの1文字が刻まれ、その1文字をアドリフロンとかウダハーと読むのである。⁽³⁾

その状況を表にすると以下のとおり。

(1) Peter Shafer, *Übersetzung der Hekhalot-Literatur III* § § 335-597, Tübingen : J.C.B.Mohr, 1989, pp.284-286.

(2) Peter Shafer, *Übersetzung der Hekhalot-Literatur II* § § 81-334, Tübingen : J.C.B.Mohr, 1987, pp.166f. 「封印を手にもつべし」とも読めるが、パル・イランの文身説を採った。

(3) Meir Bar-Ilan, "Jewish magical Body-Inscription in the First and Second Centuries", in *A Quarterly for Jewish Studies Vol.LVII, Issue 1*, Jerusalem : Magnes Press, 1988.

	案 内 者	封 印 の 名 前	
第1宮殿	ダハビエル (右) トファヒエル (左)	主トトロシアイ (右) スリヤー (左)	טוטרוסיאי יהוה סוריא
第2宮殿	タグリエル (右) マスピエル (左)	主アドリフロン (右) ウザハー (左)	אדריהרון יהוה אוזהיא
第3宮殿	シェボリエル (右) レジジエル (左)	主ズルタク (右) デハビオロン (左)	צורתק יהוה דהביורון
第4宮殿	パーディエル (右) ゲボーティエル (左)	主ゼボーリエル (右) マルジビエル (左)	זבוריא אל יהוה מרגיואל
第5宮殿	テヒラエル (右) アズリエル (左)	主トトラビエル (右) ゼファフタリアイ (左)	טוטרכיא אל יהוה זהפתריאי
第6宮殿	ドウミエル (右) カツピエル (左)	ペロニヤー (右) ゾハリエル (左) パーリ・パーリ (左)	ברוניה זהרריאל פעלי פעלי
第7宮殿	ドウミエル (右) ガブリエル (中央) カツピエル (左)	エズボガー (大封印、大誓言) ズルタク (大封印、王冠)	אזבוגה צורתק

- 注：1 門番たちの名前は省略した。第6宮殿までは左右に整列するだけだが、第7宮殿においては、上昇の際には、主ゼファフタリアイ以下8柱の、下降の際には主ノラリエル以下双神7柱が守護する。
- 2 ヘブル語の綴りは、モートン・スミス訳（ドン・カロ構成）を尊重した。第5宮殿の封印を「主トトラキエル」とする等の誤訳は修正した。なお、シェファアのドイツ語訳及びヘブル語原典を確認済みである。

(2) 靈魂昇昇

古代において、人間の靈魂は天から地上に降下し、或いは地上から天に昇ると信じられた。「靈魂昇昇（プシュカノディア）」という専門用語まで存在する。その際、惑星圏を通過すると考えられた。⁽⁴⁾

『ポイマンドレース』においては惑星圏のカルデア配列を利用して、靈魂昇昇の際の各天における惑星の属性の放棄が語られた。

ユダヤ教のメルカバ神秘主義においても、神秘への参入者は、精進潔斎ののち7宮殿を超えて、栄光の玉座の間にたどり着く。その課程を「メルカバへの上昇（アリヤー・メルカーバー）」または「メルカバへの下降（ヨレド・メルカーバー）」という。⁽⁵⁾

その特徴は宮殿が惑星天には属していないことである。⁽⁶⁾

むろん、カバラの達人たちは、深い瞑想状態において想像力によりメルカバへの上昇等を試みたのであり、⁽⁷⁾我々もその状況を体験しよう。

(4) プラトン『ティマイオス』41d。

(5) ヨアン・P. クリアーノ『靈魂離脱とグノーシス』岩波書店、2009年、205-206頁。

(6) クリアーノ前掲書、15、16頁。

(7) Moshe Idel, *Ascensions on High in Jewish Mysticism*, New York: Central European University Press, 2005, p.51.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (PC)、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い、白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を出発点及び帰着点として使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) トラクトの活用

儀式の構成に必要な聖言等を『ヘハロース・ラバタイ』等から引用した。

(2) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印 (𐤀𐤍𐤏𐤍)」は護符 (amulets) に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。⁽⁸⁾

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。⁽⁹⁾

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。

「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈禱する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」⁽¹⁰⁾

(2) 聖四文字の呼吸

バルディチェブのラビ・レヴィ・イーチャクの見解によれば、聖四文字 𐤍𐤏𐤍𐤏 の前半の二文字 𐤍𐤏 は「無の性質」を、後半の二文字 𐤍𐤏 は「有の性質」を表す。「有の性質」は、われわれが自然界と認知する存在の階層をあらわす。そして、「無の性質」は、霊的世界と認知する存在の階層をあらわす。従って、物質界において 𐤍𐤏 の意識を獲得すれば、物質を超越することができる。

また、ベリマー (𐤁𐤏𐤍𐤏𐤍) という単語は、「なし」という意味のベリ (𐤁𐤏𐤍) と「何か」という意味のマー (𐤍𐤏) を結びつけた単語であり、旧約聖書の中ではただ一か所

(『ヨブ記』26章7) に使われている。その意味は「何ものもなし」となる。

『セフェル・イェツィラー』においてはセフィロト・ベリマーとして十の原数として現され

(8) Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

(9) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

(10) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

た。その際、ペリマーはアイン・ソフと同義と解釈される。⁽¹¹⁾

従って、この聖四文字の呼吸法においては、ペリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、「㊦」を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。⁽¹²⁾

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

(3) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群⁽¹³⁾」、言語入力の混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽¹⁴⁾）などを利用する。

(4) 呪文の構成

呪歌及び神聖名を使用する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(11) ゲルシヨム・ショーレム 「初期カバラにおける聖書の神とプロティノスの神の戦い」

『エラノス叢書 10 創造の形態学 I』 平凡社、1990年、235-236頁。

(12) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

(13) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(14) グザヴィエ・スロン 『認知神経心理学』 白水社、1995年、63、64頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אֲוִרִים סָסְתִּיִּי)

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(אבג בגג)

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」(אר'ם ת'פא)

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אור'ים תס'י אה)

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אבית תל בג אר י'ו ד'ו אל)

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」(או פאך ק'יטר סס אחד י'ד'ד יה)

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。

わが天蓋を封じる。」(אורף פת יהו ח'יו יו זהו יהו ת'תם)

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。
「I.O.S.の神殿に四方位の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

PC：「エロウイー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) わが力の根元よ。
ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 汝が授けし息吹よ。(15)
テホラー・ヒー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) そは清浄なり。
アター・パラター
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 汝がそを創造せり。
アター・ヤツアルター
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 汝がそを形成せり。
アター・ネファクター・ビー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 汝はそを我に吹き寄せる。
ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) また、汝は我がうちにあるそを監視する。
ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) また、汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員：「パラフター・ヴェ・ヤツアルター
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 創造と形成)」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

PC：「ヒー・ネイ・ニー (וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) われはここに
ヒー・ネイ・ニー (וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) われはここに
ヒー・ネイ・アーニー・ヤー (וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) われはここに、神の息吹の
アナ・ホウシーアー (וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 加護のあらんことを)」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー
(וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) 息吹の加護あらんこと)」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)
全員：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。
雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。
その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。
その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。
これはエロヒムの影だ。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー (וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) われと名前なきもの
アーニー・ポー (וְהָיָה כֹחַ הַשָּׁמַיִם) われと名前なきもの

(15) 来る (בוא) の変化形 (ב) は、「霊が我がうちに入りたり (בִּי רָחַם) 」
(『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主のカよ) 」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主のカよ) 」

南の壁いっぱい、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

PCは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠟宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー (אֲנִי וְשֵׁם אֵין われと名前なきもの)
アーニー・ポー (אֲנִי וְשֵׁם אֵין われと名前なきもの)
ホウシーアナ (הוֹשִׁיעַ אֶתְּנוּ われを助けよ) 」

全員：「ホウシーアナ (הוֹשִׁיעַ אֶתְּנוּ われを助けよ) 」

PCはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヴァウ」(呼気) 「ヘー」(吸気) 「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員：「ヴァウ」(呼気) 「ヘー」(吸気) 「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱい、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

PCは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ポー (אֲנִי וְשֵׁם אֵין われと名前なきもの)
アーニー・ポー (אֲנִי וְשֵׁם אֵין われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ) 」

全員：「エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ) 」

北の壁いっぱい、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 上昇（第1宮殿から第7宮殿）

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは宣言する

「アーニー・ヴァーホー・ハウシーアー・ナー
 (𐤀𐤍) 𐤅𐤏𐤔𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕
 われとかれと、今ここに加護のあらんことを)」

祭壇上の虹弓図をたてる。

PCはすかさず言う。

「アーニー・アーニー・ホウアー
 (𐤀𐤍𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 われ、われこそかれなり)」⁽¹⁶⁾

PCは矢羽の下側の黒い三角に右手の指をあてて言う。

PC：「第1の声に曰く。それを耳にせし者はなべて、忽ち絶叫し、ひれ伏すなり。」

PCは矢羽の右側のオリーブ色の三角に右手の指をあてて言う。

PC：「第2の声に曰く。それを傾聴せし者はなべて、忽ち感乱して戻らず。」

PCは矢羽の左側の小豆色の三角に右手の指をあてて言う。

PC：「第3の声に曰く。それを耳にせし者はなべて、忽ち痙攣に取り憑かれ死に至る。」

PCは矢羽の上側のレモン色の三角に右手の指をあてて言う。

PC：「第4の声に曰く。それを傾聴せし者はなべて、忽ち頭蓋骨をとられ、身体は砕け、四肢の先端が引き裂かれる。」

PCは矢筈の中程のヨドを記した円に右手の指をあてて言う。

PC：「第5の声に曰く。それを耳にせし者はなべて、忽ち肉身を空の容器のように絞り出され、血のなかに溶け去る。」

PCは矢筈の中程のタウ・タウを記した円に右手の指をあてて言う。

PC：「第6の声に曰く。それを傾聴せし者はなべて、忽ち心臓を貪婪な火に絡めとられ、心臓は感乱し、内臓深く押し込まれ、胆汁は水のごとく溶けたり。」

PCは矢筈の上のダレスを記した円に右手の指をあてて言う。

PC：「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、ツァバオス・ヴェ・コール」⁽¹⁷⁾

PCは東面したまま、高らかに唄い始める。

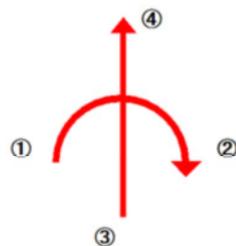
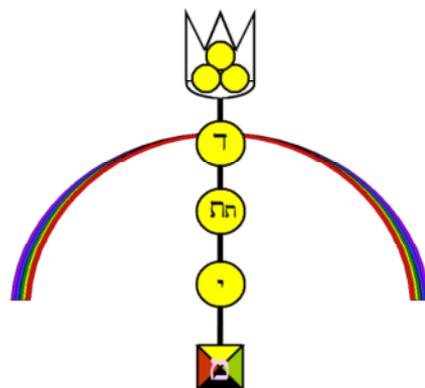
PC：「リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
 (𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕
 汝が導きにわが望みを主よ。)
 キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー
 (𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕
 我が望みを主の導かれるままに。)
 シャーディー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー
 (𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕
 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェ・ゲー・リアー (𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤕𐤏𐤕)」

全員：「隠され開示されたり。」

PCは虹弓図の王冠に右手を触れるとともに、その上に弓のサインを描いた。

参加者は浄火界に入る。風に乗り、マルクトの神殿を離れると、漆黒の空に投げ出される。



(16) 「今見よ、われ、われこそはかれである。われのほかエロヒムはない。」『申命記』(32章39)

(17) Hekhaloth Rabbati, §§ 104.

足下に青い地球が見える。それ以外は全周が星空である。右上に微かに光る雲のようなものが見え、その方向にゆっくりと螺旋を描くように飛翔していく。風を切る滑空感はなく、無重力帯を流されるような強烈な浮遊感がある。雲のなかに石を敷き詰めた細い道路が見える。第1の宮殿の参道である。

第1の宮殿の参道を挟んで、右に天使ダハビエル、左に天使トファヒエルが待っている。かれらは、第1の宮殿に向かうわれらの案内者である。

第1の宮殿の門に至る参道には、右側に4人、左側に4人の剣と弓で武装した天使が門番として控えていた。

PCは門番を見据えて、言う。

PC：「われは真実の光のなかに戦車の御者として参じたり。

真実はわれを導きわれを率いたり。

すなわち、波打ち際や湾に導き、崖や峡谷から遠ざける。」⁽¹⁸⁾

PCは右の門番に右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・トゥートゥーローシーアイ・アドゥー・ナイ」

(הַוְּתֵם טוּטוּוֹרֹשֵׁי אֵי אֲדוּוֹ נַי 封印は、主トロシアイなり。)

全員が右手の甲を門の右側の天使たちに見せる。手の甲の上部にヘブル文字のタウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

右側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。

それを確認して右手をおろす。

PCは左の門番に左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・スゥーリィーヤー」

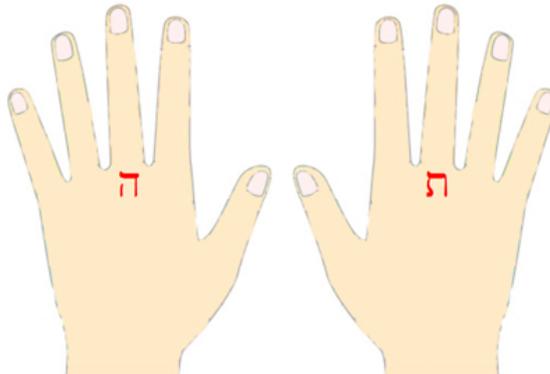
(הַוְּתֵם סוּוֹרִי יָא 封印は、スリヤーなり。)

全員が左手の甲を門の左側の天使たちに見せる。手の甲の上部にヘブル文字のヘーが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

左側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。

それを確認して左手をおろす。



PCは門に向かい弓のサインを描く。門が開き、案内者の天使ダハビエルと天使トファヒエルが軽く黙礼する。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。

宮殿のなかには、再び宮殿がある。第2の宮殿へ向かう参道が延びていた。案内者である天使タグリエルが右に、天使マスピエルが左に待っている。

ただちに現れた第2の門の前に、8人の武装天使が左右に分かれて待機していた。

PCは右の門番に右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・アドゥーリィーフロン・アドゥー・ナイ」

(הַוְּתֵם אֲדוּרִי פְרוֹן אֲדוּוֹ נַי 封印は、主アドリフロンなり。)

(18) "Ode of Solomon", 38, in *The Old Testament Pseudepigrapha Volume 2*, New York : Doubleday, 1985, p.766.

全員が右手の甲を門の右側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字タウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

右側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して右手をおろす。

PCは左の門番に左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・ウーザッハー」

(אָוּזאַהאַר וואָס דאַרף אַ סעל) 封印は、ウザハーなり。)

全員が左手の甲を門の左側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字のヘーが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

左側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して左手をおろす。

PCは門に向かい弓のサインを描く。門が開き、案内者の天使タグリエルと天使マスペエルが軽く黙礼する。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。宮殿のなかには、再び宮殿がある。第3の宮殿へ向かう参道が延びていた。案内者である天使シェボリエルが右に、天使レジリエルが左に待っている。

ただちに現れた第3の門の前に、8人の武装天使が左右に分かれて待機していた。

PCは右の門番に右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・ズールータク・アドゥー・ナイ」

(אָדוּ אַ נאַי אַ זוּל טאַק וואָס דאַרף אַ סעל) 封印は、主ズルタクなり。)

全員が右手の甲を門の右側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字タウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

右側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して右手をおろす。

PCは左の門番に左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・ドゥーハービーオウロン」

(אָוואָרן אַ ביי אַ דוּ האַר וואָס דאַרף אַ סעל) 封印は、デハビオロンなり。)

全員が左手の甲を門の左側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字のヘーが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

左側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して左手をおろす。

PCは門に向かい弓のサインを描く。門が開き、案内者の天使シェボリエルと天使レジリエルが軽く黙礼する。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。宮殿のなかには、再び宮殿がある。第4の宮殿へ向かう参道が延びていた。案内者である天使バーディエルが右に、天使ゲボージェリエルが左に待っている。

ただちに現れた第4の門の前に、8人の武装天使が左右に分かれて待機していた。

PCは右の門番に右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・ジェボーリエル・アドゥー・ナイ」

(אָדוּ אַ נאַי אַ זעבאָרעל וואָס דאַרף אַ סעל) 封印は、主ゼボーリエルなり。)

全員が右手の甲を門の右側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字タウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

右側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して右手をおろす。

PCは左の門番に左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・マール・ジュービエル」

(אָוואָרן אַ ביי אַ דוּ האַר וואָס דאַרף אַ סעל) 封印は、マルジビエルなり。)

全員が左手の甲を門の左側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字のヘーが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

左側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して左手をおろす。

PCは門に向かい弓のサインを描く。門が開き、案内者の天使バーディエルと天使ゲボーティエルが軽く黙礼する。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。宮殿のなかには、再び宮殿がある。第5の宮殿へ向かう参道が延びていた。案内者である天使テヒラエルが右に、天使アズリエルが左に待っている。

ただちに現れた第5の門の前に、8人の武装天使が左右に分かれて待機していた。

PCは右の門番に右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテム・トゥートウーラービーエル・アドゥー・ナイ」

(חֹתָם טוֹטְרוּבִּי אֵל יְהוָה) 封印は、主トラビエルなり。)

全員が右手の甲を門の右側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字タウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

右側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して右手をおろす。

PCは左の門番に左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテム・ゼーフアアー・フーターリーアイ」

(חֹתָם זְהַפְתָּרִי אֵי) 封印は、ゼファフタリアイなり。)

全員が左手の甲を門の左側の天使たちに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字のヘーが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

左側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して左手をおろす。

PCは門に向かい弓のサインを描く。門が開き、案内者の天使テヒラエルと天使アズリエルが軽く黙礼する。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。宮殿のなかには、再び宮殿がある。第6の宮殿へ向かう参道が延びていた。案内者である天使ドゥミエルが右に、天使カツピエルが左に待っている。

ただちに第6の門の前に、8人の武装天使が左右に分かれて待機していた。案内者とわれわれの前に立つと、門番のうち、3人は門を遮るように前に、3人はわれわれの背後に、残り2人は左右に分かれ、つまり、完全に周囲を包囲した。

PCは天使ドゥミエルに右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテム・ペロウーニィーヤー」

(חֹתָם בְּרוּיָה) 封印は、ペロニヤーなり。)

全員が右手の甲を天使ドゥミエルに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字タウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

PCは天使カツピエルに左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテム・ゾーハアーラァリエル・ヴェ・パーリ・パーリィー」

(חֹתָם זְהַרְרִי אֵל וּפְעֵלִי פְעֵלִי) 封印は、ゾハラリエルとパーリ・パーリなり。)

全員が左手の甲を天使カツピエルに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字のヘーがふたつ水平な光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

周囲を囲む門番の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。それを確認して、両手をおろす。

PCは門に向かい弓のサインを描く。門が開き、案内者の天使ドゥミエルと天使カツピエルが先だつて門をくぐる。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。

宮殿のなかには、再び宮殿がある。第7の宮殿へ向かう参道が延びていた。案内者である天使ドゥミエルが右に、天使カツピエルが左に、そして天使ガブリエルが中央の参道上に待っている。ただちに第7の門の前に、8柱ぶつの武装天使群が左右に分かれて待機していた。

PCは天使ドゥミエルに右手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・ケテル・エアーズウーボウーガー」

(הַיְיבֹוֹטִים בְּכַתְרֵי הַמְּלָכִים 王冠たる封印は、エズボガーなり。)

全員が右手の甲を天使ドゥミエルに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字タウが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

右側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。

中央の門は半分だけ開放された。宮殿の内部から光と闇が溢れ出る。

それを確認して右手をおろす。

PCは天使カツピエルに左手の甲を示し、言う。

PC：「ホーテーム・ケテル・ズウールータク」

(הַיְיבֹוֹטִים בְּכַתְרֵי הַמְּלָכִים 王冠たる封印は、ズルタクなり。)

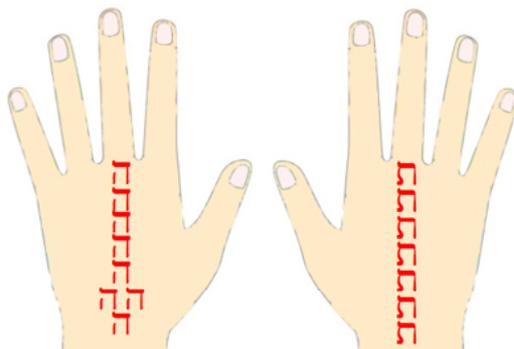
全員が左手の甲を天使カツピエルに見せる。手の甲にある先の封印の直下に、新たなヘブル文字のヘーが光の帯として刻印され、手の甲に瞬間的な痛みを感じる。

全員：「われ封印を示したり。」

左側の天使たちは、抜き身の検先を地面に垂らし、弓を宮殿の壁にたてかける。

門が完全に開き、大いなる光と闇が門の内部に渦巻いている。

それを確認して左手をおろす。



門が開き、案内者の天使ドゥミエルと天使カツピエルが軽く黙礼する。ガブリエルは先だって門をくぐる。

全員が門をくぐり、その瞬間に両手の甲の封印にちりちりとした引き攣るような感覚を覚える。宮殿のなかに入る。

8 宮殿における顕現

第7宮殿は、奥深い広間である。正面の高い場所に玉座がある。その周囲には4聖獣が群れており、ケルビムとオファニムたちがいた。天使の群れは巨大なひとつの生き物のように群れて動き、256の顔が512の目を光らせていた。

広間の中央に祭壇があり、天使の合唱が響くなか、一同は祭壇の周りに参集した。

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは祭壇に置かれた一枚のタリズマンを取り出し、両手で掲げて東に向け額より高く掲げる。

PC：「ビシュマーク・マリ・アスター」

(בְּשֵׁם מְרִי אֲסִתָּא 汝が御名により、救済者よ)

全員：「ビシュマーク・マリ・アスター」

(בְּשֵׁם מְרִי אֲסִתָּא 汝が御名により、救済者よ)

タリズマンを祭壇に戻し、右腕を南にむけ、掌を下に向け水平に伸ばす。

全員が右腕を南にむける。

PC：「ラース・ミーン・セリーク・ワトレフェ・ダス・ミン・メナ」

(לאם מין סליק ואטרפי דאם מן מנא)
 エナス・ラス・ラ・セリーク・ワトレーフエ・ダス・エナス
 (אינש לאם לא סליק ואטרפי דאם אינש)
 右手に抑制者あり。」

全員：「ラス・ミーン・セリーク」(לאם מין סליק)
 右手に抑制者あり。」

「右手に抑制者あり」と言うと同時に右の手の甲にチクリと刺すような感覚を感じる。



右腕を脇に戻し、左腕を北にむけ、水平に伸ばす。全員が同じ動作をする。

PC：「メナ・パイブデン・ヴェナス・ラス・ラス・ラ・セリーク
 (מנה ביהיבדין ואינש לאם לא סליק)
 ワトレーフエ・ダス・エナス
 (ואטרפי דאם אינש) (19)
 左手に解放者あり。」

全員：「ワトレーフエ・ダス・エナス (ואטרפי דאם אינש)
 左手に解放者あり。」

「左手に解放者あり」と言うと同時に左の手の甲に暖かい吐息のような感触を感じる。

左腕を脇に戻し、直立する。全員が同じ動作をする。

PC：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。
 高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。
 汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。
 全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。
 わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。
 汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」 (20)

PCが高らかに唄い始める。

PC：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
 (לי ש אחיה קבון שדי)
 汝が導きにわが望みを主よ。
 キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー

(19) J.A.Montgomery, *Aramaic Incantation Texts from Nippur*, Philadelphia : University of Pennsylvania Museum, 1913, p.185, 201 (plates 15&20) .

(20) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

(קבוצת שדי לי יש אהיה) 我が望みを主の導かれるままに。
シャードー・リー・イエー・シュー・アツ・チャー・キー・ビー・ティー
(קבוצת שדי לי יש אהיה קבוצת) 主の導きに我が望みを。)

PC : 「サティームー・ヴェ・ゲー・リアー (סתים ונגלים)」
全員 : 「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、救済者の現前のもと、秋分の秘儀にあずかる。

PCは、神殿の南に行き、北を向いて言う。

「この場は、光と闇の至聖処なり。
今、頭上に秋分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
秋分の執行を宣言する。」

9 秋分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC : 「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC : 「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC : 「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に立ち、東に向かってホルスのサインを行う。

PC : 「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC : 「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC : 「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC : 「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員 : 「主よ。われらは自らを捧げん。
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員 : 「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

10 帰還と諸天使の出立

PCは帰還を宣言する。
「諸天界を超え地上の神殿に帰還せん。」

「リーボイノイ・シェル・オイローム
(רבונו של עולם 宇宙の主よ)
ハーレニー・モーケル・リー
(הרני מוחל לי われは寛恕す)
アードーニー・ツェウリー・ヴェ・ゴーアラー
(יהוה צורנו וגאלנו 主、わが岩、わが贖い主よ) 」⁽²¹⁾

宮殿の門を超え雲の道に入り、一息でマルクト神殿に帰還する。
あなたは、PCとともに瞬時にマルクト神殿に帰還した。

PCは祭壇に行き虹弓図を祭壇の上に置き直した。祭壇の北に廻り、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。
PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (יהוה)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (יהוה)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上であり、下であり、内であり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

11 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。
PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。(特別な手順は必要ない。) 静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ(『魔法日記』用)を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

(21) Tamar Frankiel & Judy Greenfeld, *Entering the Temple of Dreams*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 2000, pp.65-75.

VERBORUM PUBLICA
I.:O.:S.:
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO IXA

IMPRIMI POTEST: I.:O.:S.:
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M. E. S. A. 5=6
SEPTEMBER MCMXCIX

秋分儀式 A E O 9 A

Copyrights © All rights reserved I.:O.:S.: 2009

2009年9月19日 I.:O.:S.:発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I.:O.:S.:の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I.:O.:S.:の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。